

今年7月13日から24日まで東京ドームで開催された「第83回都市対抗野球大会」に、町野球協会の林裕子さんがアナウンス担当として参加、大会をバックアップした。アナウンスとしては岩手県から10年ぶり2人目、今回は東北地区の推薦によるもので、「夢の東京ドームでのアナウンス」を実現した。

都市対抗野球は年に1度の社会人野球の祭典で「都市＝市や町村」代表として全国から予選を勝ち抜いた32チームが出場。郷土芸能などのステージ発表や地域の特色を生かした大応援団など、華々しいイベントにもなっている。



笑顔で頑張っているみなさんをクローズアップします

第83回都市対抗野球・夢の東京ドームでアナウンス

仲間の励ましで  
頑張ることができた  
林裕子さん (田子・44歳)

林さんは1回戦・門真市（パナソニック）対大津市（Honda熊本）と2回戦・東京都（JR東日本）対太田市（富士重工業）の計2試合を担当。「オーダー（守備や打順）のほかに、地震などの有事の際の注意や、スポンサー提供の個人賞の紹介など、攻守の交代のとき普通の試合と違いアナウンスする原稿の量が山ほどありました。また、音響設備も違って、話すスピードの感覚もつかみにくかったです」と感想を話す林さん。それでも「スムーズな試合進行を心がけ、聞きやすさ、イントネーションに気を付けました。70点ぐらいかな」と自己採点。大会関係者から「聞きやすい放送だったよ」と声をかけられホッとした。

大会前、緊張からか体調を崩し点滴も……。 「本当にドームに行けるかな？」と頭をよぎったこともあったが、新幹線に乗ったとき、「やるしかない！」と腹をくくった。「激励会をして送り出してくれた町野球協会のみんなや、励ましに東京まで

駆け付けてくれた野田村や釜石市などのアナウンス仲間のおかげで頑張ることができました」と感謝する。「人と人とのつながり」に一番やりがいを感じている。

林さんがアナウンスを始めたのは、野球の審判員を務める夫の昌身さんと一緒に17年目に。「県内のいろいろな大会に、2人で一緒に歩き勉強しました。今は、主人が球審のときが一番やりやすい」とコンビネーションも抜群。

町内で行われる小学生から大人の野球大会は、町野球協会の審判員・アナウンスがしっかりサポート。地区大会などはアナウンスがなく、県大会クラスでなければつかないことが多い。いつも地元の大会ではポジションや打順を、球場いっぱいに告げられ気持ち良くグラウンドに立てる葛巻の選手たちは本当に恵まれているし、応援の盛り上がりも違う。

町野球協会のアナウンス担当は女性4人。毎年、シーズン中の週末は町内だけでなく、県内各地の小学生から大人の軟式・社会人野球の大会から声がかかる。「審判やアナウンスなど、大会運営を支える仲間を募集しています。一緒に頑張ってみませんか？」とこれまでの経験をしっかり次世代へつなげることが林さんの次の目標だ。



8/26 町総合運動公園野球場で



熱心に指導する鳴尾さん④、ミニゲームでプレイを体感する選手

葛巻サッカースポ少が  
鳴尾直軌さんから指導

葛巻サッカースポーツ少年団（笹川昭文代表・団員28人）は8月2日、Jリーグで選手として活躍したブルージャ盛岡・監督の鳴尾直軌さんから指導を受けました。

子どもたちは、動きながら周囲に目を向け声を出したり、1対1でも相手に背を向けず正面で勝負することなどを教わりました。最後に、鳴尾さんと一緒にミニゲームを行い、プレイを体感しました。鳴尾さんは「素直でみんないい選手ばかりですね」と話しました。山中竜哉さん（葛巻小3年）は「ドリブルで8の字をつくったり楽しかった。また鳴尾さんとサッカーをしたい」と笑顔を見せました。

高校生がふれあい体験  
赤ちゃんについて学ぶ

高校生を対象とした赤ちゃんとの「ふれあい体験学習」が8月8日、保健センターで行われました。今回は葛巻高校の生徒男女6人が参加し、赤ちゃんや子育てについて保健師やお母さんたちから学びました。

生徒たちは、午前中に保健師から離乳食の作り方や赤ちゃんの抱っこ仕方などの説明を受けました。そして午後の乳幼児相談では、計測などを待つ赤ちゃんを実際に抱っこしたり、一緒に遊んだりしました。中六角彩花さん（1年）は「あまり赤ちゃんとのふれあう機会がなかったので、良い機会になりました」と笑顔で話しました。



赤ちゃんに笑顔でふれあう高校生

児童たちの手作り看板  
事故防止を願って設置

小屋瀬小学校（菊池育子校長・児童28人）の児童たちの手作り交通安全看板の完成集会在8月24日、同校で行われました。この看板は交通事故の防止を願い、岩手警察署の協力のもとに作られたもので、児童たちが考えた標語とかわいらしい絵が特徴です。

集会では3枚の大きな看板がお披露目され、看板を作った各班のリーダーが最後の筆入れを行いました。そのうちの1枚が校庭に面した歩道のネットフェンスに設置されると、児童や集会に参加した父兄からは、喜びの声が上がっていました。



看板に最後の筆入れをするリーダーたち